

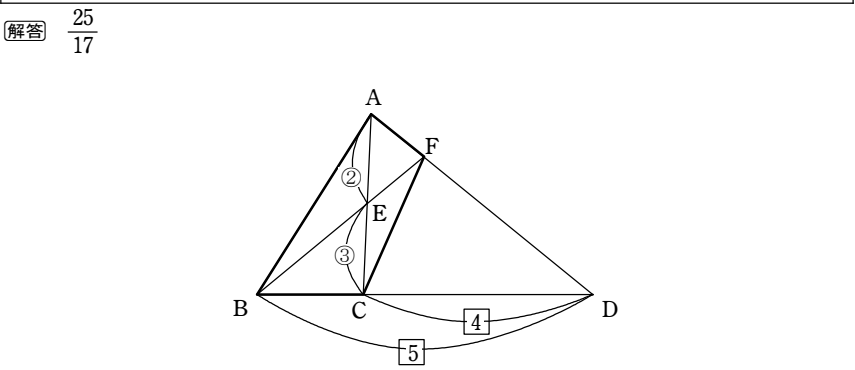
1 次の問い(問1~3)の各枠に当てはまる符号または数字をマークせよ。

問1 不等式  $1 \leq \log_e n \leq 12$  を満たす自然数  $n$  の桁数  $p$  は  $\boxed{1} \leq p \leq \boxed{2}$  である。ただし、 $0.4342 < \log_{10} e < 0.4343$  である。

【解答】  $1 \leq p \leq 6$

【解説】  $1 \leq \log_e n \leq 12$   
 $\Leftrightarrow e \leq n \leq e^{12} \dots \textcircled{1}$   
 と変形できるので、 $0.4342 < \log_{10} e < 0.4343$  であるから  $10^{0.4342} < e < 10^{0.4343}$  であり、 $e$  の整数部分は1桁。  
 また、 $5.2104 < \log_{10} e^{12} < 5.2116$  であるから  $10^{5.2104} < e^{12} < 10^{5.2116}$  であり、 $e^{12}$  の整数部分は6桁。  
 したがって、 $\textcircled{1}$  を満たす自然数  $n$  は1桁~6桁であり、 $1 \leq p \leq 6$ 。

問2 三角形 ABC において、辺 BC を 5:4 に外分する点を D、辺 CA を 3:2 に内分する点を E、線分 BE の延長と線分 AD との交点を F とする。このとき、四角形 ABCF の面積は三角形 ABC の面積の  $\frac{\boxed{3}}{\boxed{5}} \cdot \frac{\boxed{4}}{\boxed{6}}$  倍である。



【解答】  $\frac{25}{17}$

$\triangle ACD$  と直線 BF を用いるとメネラウスの定理より  $\frac{AE}{EC} \cdot \frac{CB}{BD} \cdot \frac{DF}{FA} = 1$   
 $\frac{2}{3} \cdot \frac{1}{5} \cdot \frac{DF}{FA} = 1$   
 よって、 $DF:FA=15:2$  である。また、面積の比を考えると、  
 $\triangle ABC = \triangle ABD \times \frac{1}{5}$   
 $\triangle CDF = \triangle ABD \times \frac{DF}{DA} \times \frac{DB}{DC} = \triangle ABD \times \frac{15}{17} \times \frac{4}{5} = \triangle ABD \times \frac{12}{17}$   
 であるから、四角形 ABCF の面積を  $S$  とすると  
 $S = \triangle ABD \times \left(1 - \frac{12}{17}\right) = \triangle ABC \times 5 \times \frac{5}{17} = \triangle ABC \times \frac{25}{17}$

【別解】  $DF:FA=15:2$  である。さらに  $\triangle BDF$  と直線 AC を用いるとメネラウスの定理より  $\frac{BC}{CD} \cdot \frac{DA}{AF} \cdot \frac{FE}{EB} = 1$   
 $\frac{1}{4} \cdot \frac{17}{2} \cdot \frac{FE}{EB} = 1$   
 よって、 $FE:EB=8:17$  である。すなわち、  
 $\triangle ABC:\triangle ACF=15:8$   
 したがって、  
 $S = \frac{17+8}{17} \times \triangle ABC = \frac{25}{17} \times \triangle ABC$

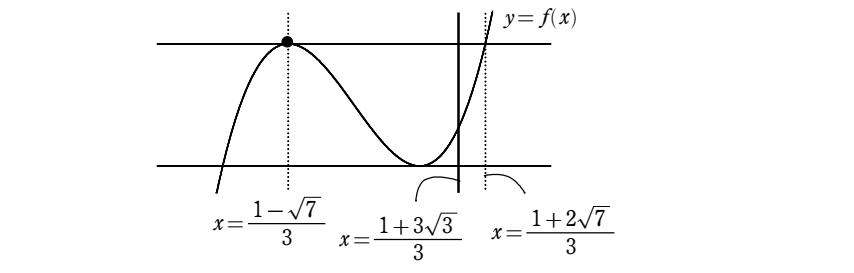
問3 関数  $f(x) = x^3 - x^2 - 2x + 1$  の区間  $x \leq \frac{1+3\sqrt{3}}{3}$  における最大値は  $\frac{\boxed{7}}{\boxed{11}} + \frac{\boxed{8}}{\boxed{12}} \sqrt{\boxed{10}}$  である。

【解答】  $\frac{7+14\sqrt{7}}{27}$

$f(x) = x^3 - x^2 - 2x + 1$  より、 $f'(x) = 3x^2 - 2x - 2$  である。  
 $f'(x) = 0$  を満たす解は、 $x = \frac{1 \pm \sqrt{7}}{3}$  であることから、増減表は次のようになる。

$x$	...	$\frac{1-\sqrt{7}}{3}$	...	$\frac{1+\sqrt{7}}{3}$	...	$\frac{1+3\sqrt{3}}{3}$
$f'(x)$	+	0	-	0	+	
$f(x)$	↗		↘		↗	

ここで、 $f(x) = f\left(\frac{1-\sqrt{7}}{3}\right)$  を満たす  $x$  を求めると、  
 $x^3 - x^2 - 2x + 1 = f\left(\frac{1-\sqrt{7}}{3}\right)$   
 $\Leftrightarrow \left(x - \frac{1-\sqrt{7}}{3}\right)^2 \left(x - \frac{1+2\sqrt{7}}{3}\right) = 0$   
 また、 $\frac{1+3\sqrt{3}}{3} = \frac{1+\sqrt{27}}{3} < \frac{1+\sqrt{28}}{3} = \frac{1+2\sqrt{7}}{3}$  であるから、 $f(x)$  を最大とする  $x$  の値は  $x = \frac{1-\sqrt{7}}{3}$  である。



また、 $f(x)$  を  $\frac{1}{3}f'(x)$  で割るとき、  
 $f(x) = \frac{1}{3}f'(x)\left(x - \frac{1}{3}\right) - \frac{14}{9}x + \frac{7}{9}$   
 となるので、 $f'\left(\frac{1-\sqrt{7}}{3}\right) = 0$  であるから  
 $f\left(\frac{1-\sqrt{7}}{3}\right) = -\frac{14}{9} \cdot \frac{1-\sqrt{7}}{3} + \frac{7}{9} = \frac{7+14\sqrt{7}}{27}$

2 次の文章を読み、下の問い(問1~3)の各枠に当てはまる符号または数字をマークせよ。

$0 \leq \theta < 2\pi$  として、不等式

$$4\sin^2\theta + 2\cos 2\theta \cos\theta + \cos\theta - 3 \geq 0 \quad (1)$$

を考える。

問1  $\cos\theta = x$  とおき、 $|x| \leq 1$  の範囲で式(1)の左辺を  $x$  の関数  $f(x)$  とおくと

$$f(x) = \boxed{13}x^3 - \boxed{14}x^2 - \boxed{15}x + \boxed{16}$$

であり、因数分解すると

$$f(x) = (x - \boxed{17})(\boxed{18}x + \boxed{19})(\boxed{20}x - \boxed{21})$$

である。

問2 不等式(1)の解は

$$\frac{\boxed{22}}{\boxed{23}}\pi \leq \theta \leq \frac{\boxed{24}}{\boxed{25}}\pi, \quad \frac{\boxed{26}}{\boxed{27}}\pi \leq \theta \leq \frac{\boxed{28}}{\boxed{29}}\pi, \quad \theta = \boxed{30}$$

(ただし、 $\boxed{22} < \boxed{26}$ ) である。

問3 問1の  $f(x)$  について、 $y = f(x)$  のグラフと  $x$  軸で囲まれた部分の面積  $S$  は

$$S = \frac{\boxed{31}}{\boxed{33}} + \frac{\boxed{32}}{\boxed{34}}$$

である。

【解答】 問1  $f(x) = 4x^3 - 4x^2 - x + 1$ ,  $f(x) = (x-1)(2x+1)(2x-1)$

問2  $\frac{1}{3}\pi \leq \theta \leq \frac{2}{3}\pi$ ,  $\frac{4}{3}\pi \leq \theta \leq \frac{5}{3}\pi$ ,  $\theta = 0$

問3  $\frac{37}{48}$

問1 (1)を変形すると、

$$4(1 - \cos^2\theta) + 2(2\cos^2\theta - 1)\cos\theta + \cos\theta - 3 \geq 0$$

ここで、 $\cos\theta = x$  とおくと、左辺は

$$\begin{aligned} f(x) &= 4(1 - x^2) + 2(2x^2 - 1)x + x - 3 \\ &= 4x^3 - 4x^2 - x + 1 \\ &= (x-1)(2x+1)(2x-1) \end{aligned}$$

と変形できる。

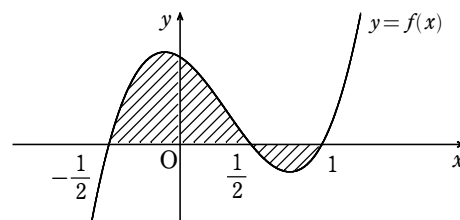
問2  $f(x) \geq 0$  を解くと、

$$-\frac{1}{2} \leq x \leq \frac{1}{2}, \quad 1 \leq x$$

である。したがって、 $x = \cos\theta$  として  $0 \leq \theta < 2\pi$  の範囲で解くと

$$\theta = 0, \quad \frac{1}{3}\pi \leq \theta \leq \frac{2}{3}\pi, \quad \frac{4}{3}\pi \leq \theta \leq \frac{5}{3}\pi$$

問3  $y = f(x)$  のグラフと  $x$  軸との交点は  $x = \pm\frac{1}{2}$ ,  $1$  であり、図は以下のようなになる。



したがって求める面積は

$$\begin{aligned} S &= \int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} (4x^3 - 4x^2 - x + 1) dx + \int_{\frac{1}{2}}^1 (-4x^3 + 4x^2 + x - 1) dx \\ &= 2 \int_0^{\frac{1}{2}} (-4x^2 + 1) dx + \int_{\frac{1}{2}}^1 (-4x^3 + 4x^2 + x - 1) dx \\ &= 2 \left[ -\frac{4}{3}x^3 + x \right]_0^{\frac{1}{2}} + \left[ -x^4 + \frac{4}{3}x^3 + \frac{1}{2}x^2 - x \right]_{\frac{1}{2}}^1 \\ &= \frac{37}{48} \end{aligned}$$

3 次の文章を読み、下の問い(問1~3)の各枠に当てはまる符号または数字をマークせよ。

$z$  を1でない複素数、 $n$  を2以上の整数として、  

$$S_n = 1 + z + z^2 + \dots + z^{n-1} \quad (2)$$
 とおく。以下では  $i$  を虚数単位とする。

問1  $z = \frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i$  のとき  

$$S_8 = \frac{\boxed{35}}{\boxed{36}} + \frac{\boxed{37}\sqrt{\boxed{38}}}{\boxed{39}}i$$
 である。

問2  $z = \cos \theta + i \sin \theta$  ( $0 < \theta < 2\pi$ ) とおく。式(2)の両辺の虚部どうしが等しいことから  

$$\sum_{k=0}^{n-1} \sin k\theta = \frac{-\sin n\theta + \boxed{40} \sin(n-1)\theta + \boxed{41} \sin \theta}{\boxed{42} - \boxed{43} \cos \theta}$$
 となる。

問3 問2の結果において  $\theta = \frac{\pi}{n}$  とおくと  

$$\sum_{k=0}^{n-1} \sin \frac{k\pi}{n} = \frac{\boxed{44} + \boxed{45} \cos \frac{\pi}{n}}{\sin \frac{\pi}{n}}$$
 となる。これより  

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=0}^{n-1} \sin \frac{k\pi}{n} = \frac{\boxed{46}}{\pi}$$
 である。

【解答】 問1  $\frac{3}{2} + \frac{-\sqrt{3}}{2}i$     問2  $\frac{-\sin n\theta + 1 \cdot \sin(n-1)\theta + 1 \cdot \sin \theta}{2 - 2\cos \theta}$   
 問3  $\frac{1 + 1 \cdot \cos \frac{\pi}{n}}{\sin \frac{\pi}{n}}, \frac{2}{\pi}$

問1  $z = \frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i$  のとき、 $z = \cos \frac{5}{3}\pi + i \sin \frac{5}{3}\pi$  であるから、 $z^6 = 1$ 。  
 このとき、 $1 + z + z^2 + z^3 + z^4 + z^5 = 0$  である。  

$$S_8 = (1 + z + z^2 + z^3 + z^4 + z^5) + z^6 + z^7$$

$$= 1 + z$$

$$= \frac{3}{2} + \frac{-\sqrt{3}}{2}i$$

問2 
$$S_n = 1 + z + z^2 + \dots + z^{n-1} = \frac{z^n - 1}{z - 1} = \frac{(z^n - 1)(\bar{z} - 1)}{(z - 1)(\bar{z} - 1)}$$

$$= \frac{z^n \bar{z} - z^n - \bar{z} + 1}{z \bar{z} - z - \bar{z} + 1} \quad \dots \textcircled{1}$$

ここで、  
 (分母)  $= |z|^2 + 1 - (z + \bar{z}) = 2 - 2\cos \theta$   
 である。また、分子の虚部だけ取り出して計算すると、  
 $\text{Im}(z^n) = \sin n\theta$ ,  $\text{Im}(\bar{z}) = \sin(-\theta)$ ,  $\text{Im}(z^n \bar{z}) = \sin(n\theta - \theta)$   
 であるから  
 $\sin(n-1)\theta - \sin n\theta - \sin(-\theta)$   
 したがって、①の虚部は  

$$\frac{-\sin n\theta + \sin(n-1)\theta + \sin \theta}{2 - 2\cos \theta}$$

また、 $1 + z + z^2 + \dots + z^{n-1}$  の虚部は  

$$0 + \sin \theta + \sin 2\theta + \dots + \sin(n-1)\theta = \sum_{k=0}^{n-1} \sin k\theta$$
 である。

問3 
$$\sum_{k=0}^{n-1} \sin \frac{k\pi}{n} = \frac{-\sin \pi + \sin\left(\pi - \frac{\pi}{n}\right) + \sin \frac{\pi}{n}}{2 - 2\cos \frac{\pi}{n}} = \frac{2\sin \frac{\pi}{n}}{2 - 2\cos \frac{\pi}{n}}$$

ここで、 $\frac{\pi}{n} = \alpha$  と表すと、  

$$\frac{2\sin \alpha}{2 - 2\cos \alpha} = \frac{\sin \alpha}{1 - \cos \alpha} = \frac{\sin \alpha(1 + \cos \alpha)}{(1 - \cos \alpha)(1 + \cos \alpha)}$$

$$= \frac{\sin \alpha(1 + \cos \alpha)}{\sin^2 \alpha} = \frac{1 + \cos \alpha}{\sin \alpha}$$

したがって、  

$$\sum_{k=0}^{n-1} \sin \frac{k\pi}{n} = \frac{1 + \cos \frac{\pi}{n}}{\sin \frac{\pi}{n}}$$

これを用いて、  

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=0}^{n-1} \sin \frac{k\pi}{n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \cdot \frac{1 + \cos \frac{\pi}{n}}{\sin \frac{\pi}{n}} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\frac{\pi}{n}}{\sin \frac{\pi}{n}} \cdot \frac{1}{\pi} \cdot (1 + \cos \frac{\pi}{n})$$

$$= 1 \cdot \frac{1}{\pi} \cdot (1 + 1) = \frac{2}{\pi}$$

【参考】 区積分積法により、  

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=0}^{n-1} \sin \frac{k\pi}{n} = \int_0^1 \sin(\pi x) dx = \frac{1}{\pi} \int_0^\pi \sin \theta d\theta = \frac{2}{\pi}$$

4 次の文章を読み、下の問い(問1～3)の各枠に当てはまる符号または数字をマークせよ。

5個の黒石と5個の白石がある。これを無作為に横一列に並べる。

問1 黒石が5個連続して並ぶ確率は  $\frac{47}{48 \cdot 49}$  である。

問2 黒石が4個連続して並ぶ確率は  $\frac{50}{51 \cdot 52}$  である。ただし、黒石が5個連続した並び方は含めない。

問3 黒石と白石のいずれか一方または両方が4個連続して並ぶ確率は  $\frac{53}{54 \cdot 55}$  である。ただし、同じ色の石が5個連続した並び方は含めない。

【解答】 問1  $\frac{1}{42}$  問2  $\frac{5}{42}$  問3  $\frac{4}{21}$

黒石5個と白石5個を1列に並べるとき、その場合の数は

$$\frac{10!}{5! \cdot 5!} = 252 \text{ (通り)}$$

これらの場合は同様に確からしい。以下、黒石をB、白石をWと表すことにする。

問1 黒石5つを一つにまとめて並べればよい。すなわち、

$\boxed{BBBBB}$  W, W, W, W, W

の並べ方を考えて6通り。ゆえに求める確率は、

$$\frac{6}{252} = \frac{1}{42}$$

問2 黒石が4個連続して並ぶのは、

$\boxed{BBBB}$  B, W, W, W, W, W

の並べ方を考えればよい。ただし、 $\boxed{BBBB}$ とBは隣り合わないのので、まず白石5個を1列に並べて、その隙間と両端の6箇所に $\boxed{BBBB}$ とBを順番に入れればよい。

したがって、

$${}_6P_2 = 30 \text{ (通り)}$$

であり、求める確率は

$$\frac{15}{252} = \frac{5}{42}$$

【別解】

$\boxed{BBBB}$  B, W, W, W, W, W の並べ方を考えると

$$\frac{7!}{5!} = 42 \text{ (通り)}$$

このうち、 $\boxed{BBBB}$  Bが隣り合うのは、その入れ替えも意識して問1から  $6 \times 2 = 12$

通りある。したがって

$$\frac{42 - 12}{252} = \frac{5}{42}$$

問3 黒石が4個連続で並ぶ確率は  $\frac{5}{42}$  であり、同様に白石が4個連続で並ぶ確率も  $\frac{5}{42}$ 。

ただし、この中には、

黒石も白石も共に4個連続で並ぶ場合 …(ア)

が重複し、さらに

黒石は4個連続で並ぶが白石が5個連続で並ぶ場合 …(イ)

白石は4個連続で並ぶが黒石が5個連続で並ぶ場合 …(ウ)

が含まれているので、これらを除けばよい。

(ア)  $\boxed{BBBB}$ とB、 $\boxed{WWWW}$ とWが隣り合わないように並べるので、

$$4 \times 2 \times 1 \times 1 = 8 \text{ 通り}$$

(イ)  $\boxed{BBBB}$ とBと $\boxed{WWWWW}$ を $\boxed{BBBB}$ とBが隣り合わないように並べるので

$$2 \times 1 \times 1 = 2 \text{ 通り}$$

(ウ) (イ)と同様に2通り。

したがって

$$\frac{5}{42} + \frac{5}{42} - \frac{8 + 2 + 2}{252} = \frac{4}{21}$$

## 二次で勝つならYMSの二次試験対策

**1/31**  
17:45～19:15頃  
**埼玉**  
(前期)

対策内容

二次試験の要点解説

個人面接対策

二次の  
ポイント

埼玉医科大学の面接は、昨年から面接前にアンケートを記入し、その内容を基に面接を行う形式に変わりました。YMSでは、合格者の貴重な情報から、本番に即した面接演習を行います。

【申込方法】・一次試験合格者が対象です。  
・受付開始は各大学ともに一次の結果発表以降となります。  
・お電話(03-3370-0410)でご予約下さい。

申し込み受付中です。詳細はYMSホームページをご覧くださいか、お電話にてお問い合わせください。